

高浜町 議会だより



- ◆正副議長 新年あいさつ P2
- ◆全国原発立地議会サミット白熱の議論模様..... P3
- ◆11名議員の2日間に及ぶ一般質問 P6～11
- ◆議会各委員会の報告 P13～17
- ◆議会出前報告会の論議模様 P18～19
- ◆東京工業大学 澤田先生 原子力を語る P20

全国原子力発電所立地議会サミット

- ①サミット初日 全体会議会場 (11月18日)
- ②第1分科会 的場議長の報告 (11月19日)
- ③全体会議 最終日 会場模様 (11月19日)

新たな年への覚悟



議長

的場 輝夫

衆院解散・総選挙が強行され、自民290・公明35、自公で3分の2の議席を得ました。まさに安定長期政権の誕生といえます。数にまかせて安倍内閣が、強権的な政治に走らず、国民の意向を慎重に計りつつ、安定した政権運営をして頂く事を願わずにはいられません。

我が高浜町は、避けられぬ人口減少・超高齢化時代の将来を睨み、コンパクトな町の構成・新たな次世代産業の誘致・青葉山麓の自然や薬草、青少年旅行村等の有効活用・現状の豊かな条件に恵まれた夏の海水浴場に新たな、「ブルーフラッグ」の獲得で磨きをか

ける企画・福井大学の寄附講座を通じての医療充実・医師の定着等々、全ては「雇用の安定・若者の定着」による持続可能な町創りに通じます。我が町が「町」であり続ける為には、町民一丸となり総力を傾ける以外の方策は無いと覚悟を決める「時」がきています。

高浜原発3・4号の再稼動に向けた規制委員会の最終判断の時期が迫ってきました。町長の最終決断に向けた重要な要素である、「町議会の判断」が求められる事となります。原発と共生する道を歩んできた我が町の将来にとって、最も重要な課題の判断をする立場にあり、慎重に議会の「意志」を決定致す所存です。

町民の皆様が、健やかに新たな年を過ごされる事を祈念しご挨拶と致します。

新年のごあいさつ



副議長

磯部 武史

新年あけましておめでとうございます。皆様には、健康で、希望に満ちた新春を迎えられましたこととお喜び申し上げます。

年末の衆議院選挙により、第3次安倍内閣が発足し、景気対策やエネルギー問題に大きな期待を寄せております。

高浜町におきましては、若年層の流出から高齢化と過疎化が続き、町勢の発展を図るうえで大きな隘路となっております。人口減少問題を打開するには、若人にも十分魅力のある地域社会を実現することが、何よりも肝要だと思えます。

議会といたしましても様々な課題に対し、しっかりと議論を尽くし皆様の付託に応えてまいります。

終わりに鑑み、皆様のますますのご健勝・ご多幸を心からご祈念申し上げます。新年のあいさつと致します。

活発な議論伯仲 全国原子力立地議員400名結集


 第9回全国原子力発電所立地議会
サミットへ高浜町議会出席


平成26年11月18日(火)～19日(水)に東京都港区品川プリンスホテルにおきまして、第9回全国原子力発電所立地議会サミットが開催され、高浜町議会で出席してまいりました。このサミットは平成9年に「原子力発電所等が立地している市町村の発生する諸問題について協議し、組織的に協力して調査・研究や情報交換をおこない、ときには提言団体になるなど、住民の安全の確保と福祉の向上、そして地域の振興に寄与する」ことを目的として設立され、今回で9回目を迎えたサミットでした。

福島第一原子力発電所の事故により、我が国の原子力に対する信頼は大きく損なわれており、今までとは全く異なった状況下での開催でした。これまでは国策に基づく国のエネルギー政策として、今日まで一定の理解を示しつつ、住民の安全・安心を常に最優先しながら、地域振興、地域共生に取り組んできたところです。

今回は「エネルギー政策と原子力発電～フクシマ復興の諸課題と立地自治体の振興～」をメインテーマに、5つの分科会に分かれ、エネルギー政策に関する議論を深めました。

本サミットは、立場や意見の異なった議員同士が、住民の安全・安心の確保・生活の安定向上、地域振興などに関して、地域住民の代表としてそれぞれの見地に立った積極的な議論を展開しました。合意点、また、意見の一致をみない点、さまざまではありますが、これこそが地域住民の率直な声であり、これらの意見を対外的に発信していくことこそが大きな意義であると考えます。

また国においては、高レベルを含む放射性廃棄物の処理・処分についても国はしっかりとしたビジョンを国民に示しながら原子力関連産業を含めたこれからのエネルギー政策についての理解を深めるべく、これまで以上に前面に立って国民への働きかけを積極的に行っていただきたい。そして、我々立地地域の労苦が報われる社会の実現を熱望します。

文責：横田則孝



保寧市より年始あいさつ



今年一年 送ってくださった 声援に深く感謝いたしながら
明るく来たる 希望に満ちた 新年を迎え
議長様と 高浜町民の 皆様の 幸福と 祝福が
みなぎるように 祈ります。

新年も 両都市の かわりない 関心と 愛でより発展的な
友好関係を 形成する 一年になることを 願います。

新年 福を たくさん 受け取ってください!
(日本でいう 明けましておめでとうございませう)

2014.12

大韓民国 保寧市長 金 東一

11月臨時議会での質疑・討論

■議案第61号
平成26年度高浜町一般会計
補正予算(第4号)

主なものは、新庁舎公民館建設事業を、5億8534万2千円の増額。教育費の入札差金を減額、文化会館・図書館の増築改修工事を増額した。

質疑

小幡憲仁議員

庁舎の移転には、議会の3分の2を得る特別決議が必要だが、いつ決議をするのか。消費税の動向や庁舎の増額は、他の建設工事に影響するの

理事者

特別議決は3月定例会に上げた。消費税動向にかかわらず予定通りにやりたい。財政的にも影響はない。

上尾徳郎議員

中央体育館建設へも影響はないか。

理事者

中央体育館は、サイクル共生交付金を充てているので期限があ

り、交付期限内に行いたい。ただ、技師を含めた管理体制は考えていく。

清常光洋議員

新庁舎の増額に関して、地震の影響とか資材の高騰などの説明があったが、見通しが甘かったのではないか。

理事者

想像以上の高騰になったのでご理解願いたい。

討論

反対討論

渡辺 孝議員

空調方式や壁面タイルの劣化など事前把握できなかったことは、役場のミスである。契約内容が安易に過ぎたので反対する。

賛成討論

栗野 明雄議員

空調問題は行政側の不行き届きであるが、この方向で仕事はやり抜かねばならない。今後の大きな警鐘になったと思う。現実的対応として理解できる。

賛成討論

清常 光洋議員

理事者の仕事に対する責任のな

さが出たと思う。積極的賛成ではない。

【賛成多数で可決】

■議案第62号

高浜町新庁舎公民館建設に伴う既存建物解体工事請負契約の一部変更

旧山喜建物の杭について。図面が無いので、杭の本数がわからず、解体後に現場確認したところ追加補正が必要になった。

討論

反対討論

渡辺 孝議員

新庁舎公民館建設に反対であるので反対する。

【賛成多数で可決】

■議案第63号

海浜清掃機械購入契約

現在のビーチクリーナーは経年劣化と塩害により、修理不能の状態に近づいている。買い換える。財源は、県のグリーンニューデール基金で全額賄う。

質疑

小幡憲仁議員

以前購入した機械が故障状態で保管されているが、修理の上活用しないか。

理事者

再利用できないか検討中である。

渡辺 孝議員

入札の時に書類の不備は、どのようなことか。

理事者

印鑑の問題である。

【全員賛成で可決】

文責／栗野明雄



整理後の新庁舎・公民館用地



12月定例会では 以下の議案を慎重審議しました

	議案件名	審議した委員会	本会議採決結果	関連ページ
承認第5号	専決処分の承認を求めることについて (平成26年度高浜町一般会計補正予算(第5号)について)	予算決算	全員賛成で承認	P13
議案第64号	平成26年度高浜町一般会計補正予算(第6号)について	予算決算	全員賛成で可決	P11・13
議案第65号	平成26年度高浜町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)について	厚生文教	全員賛成で可決	P15
議案第66号	平成26年度高浜町国民健康保険診療所特別会計補正予算(第1号)について	厚生文教	全員賛成で可決	—
議案第67号	平成26年度高浜町介護保険特別会計補正予算(第3号)について	厚生文教	全員賛成で可決	P15
議案第68号	平成26年度高浜町簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)について	総務産業	賛成多数で可決	P14
議案第69号	平成26年度高浜町集落排水事業特別会計補正予算(第1号)について	総務産業	全員賛成で可決	P14
議案第70号	平成26年度高浜町水道事業特別会計補正予算(第1号)について	総務産業	全員賛成で可決	P11・14
議案第71号	高浜町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	総務産業	全員賛成で可決	P11・14
議案第72号	高浜町国民健康保険条例の一部を改正する条例について	厚生文教	全員賛成で可決	—
議案第73号	高浜町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	厚生文教	賛成多数で可決	P12・15
議案第74号	高浜町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定について	厚生文教	賛成多数で可決	P12・15
議案第75号	高浜町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	厚生文教	全員賛成で可決	P15
議案第76号	高浜町青葉山青少年旅行村の設置及び管理に関する条例を廃止する条例について	厚生文教	全員賛成で可決	P11・15
議案第77号	高浜町文化会館及び高浜町中央図書館施設増築改修工事請負契約の一部変更について	厚生文教	賛成多数で可決	P12・15
議案第78号	高浜町休養施設の指定管理者の指定について	総務産業	全員賛成で可決	P12・14
同意第2号	固定資産評価審査委員会委員の選任について		全員賛成で同意	—
請願第6号	子どもの医療費助成制度の窓口無料化についての請願	厚生文教	賛成少数で不採択	P12・15
請願第7号	原発の再稼働の地元同意の範囲を30キロ圏自治体に置くこと、避難計画の実効性を確保することを政府にもとめる意見書の採択を求める請願	原子力対策	賛成少数で不採択	P12・16

●承認案件……1議案 ●予算案件……7議案 ●条例案件……6件 ●契約案件……1議案 ●その他案件……1議案
●人事案件……1議案 ●請願……2議案 合計19議案(15議案可決、1議案同意、1議案承認、2議案不採択)



城山公園の管理の充実を

答弁 担い手育成にご協力を

栗野 明雄 議員

【栗野】

我々の先人は、城山公園の景観を守る活動をしてきたと聞いている。しかし現状は、樹木の管理が行き届かず、崖崩れも発生し、景観にも配慮しているとは言いがたい状況にある。城跡の石積みは歴史的価値のあるものだと思う。理事者の見解を問う。

【まちづくり課長】

景観が損なわれ遊歩道は補修が必要などところがある。シルバー人材センターに業務委託をしているが、景観に配慮をするところまでは至っていない。担い手育成に御協力をお願いしたい。



高浜城跡石垣

◆海岸の磯焼けの状況は？

【栗野】

漁師の方に「漁はどうですか？」と問うと良い返事は帰ってこない。ひと昔に比べ海藻が減ったように感じる。対策を行う考えはないか。

【まちづくり課長】

水揚げは減っている。高浜でも磯焼けは見受けられる。内浦湾は特にひどく、藻場造成事業に取り組んでいる。磯焼けは、人為的影響でも起こりうることから、調査し里海の再生をめざしたい。

◆津波対策のGPS波浪計の設置を

【栗野】

町長も国に要望されていたGPS波浪計は、津波が来たときにはいち早く状況が伝わり、避難することができる。現状は？

【防災安全課長】

若狭湾沖に設置をされると、嶺南地域の防災・減災に有効である。県・国に要望をしている。情報はあらゆる手段で伝えていく。



城山再整備計画の進捗はどうか

答弁 公園用地確保に向け交渉中

磯部 武史 議員

【磯部】

26年度当初予算には、城山公園入り口周辺を再整備し、公園へのアプローチ改善を図る予算が計上された。12月になるがその気配がない。進捗はどうか。

【まちづくり課長】

先行整備として分かりづらいアプローチの解消を図るため、道路線形の改修。地区住民の方々および公園利用者の安全確保と利便性の向上としての歩道整備。安全と防犯面の強化と開放感のある公園エントランス空間の創出を計画している。



分かりづらい公園入口の道路線形

本年度は、整備を見据えた用地確保と施設・事代会館等の移転計画に取り組むため用地交渉を進めている。

隣接する高浜漁港再整備計画や、町中の賑わい施策との連携により、ランドマークである城山公園を拠点に「高浜を丸ごと味わえる海辺の公園」をコンセプトにした計画づくりを進めたい。

日赤救護所の移転計画に合わせ、水難救護委員会やライフセーバー、観光関係者を主体に安全に海を楽しむ体制づくりや、体験型プログラムを使った自然に親しむことのできるアクティビティを提供する施設及び運営組織の設立など、通年型の観光施策の推進に取り組んでいく。

【磯部】

事代会館の移転や用地交渉については、関係者と十分協議し親身な対応で納得のいく形になるよう進めていただきたい。



原子力避難訓練の反省点と今後の計画について

答弁 放射線防護施設の増設を検討して行く

井ノ元 康夫 議員

【井ノ元】
今年の8月31日に原子力防災訓練が町内対象地区の住民と関係機関参加のもと行われた。内浦地区を例えると、避難時には京都府舞鶴市を経由して兵庫県の受け入れ先に移動するよう計画されている。避難の一報で渋滞が予測される事は明らかで、その渋滞予測と受け入れ先の進捗状況は。また訓練実施後に安定ヨウ素剤の説明会が行われ、配布されたが医師の問診でヨウ素剤を受け取れなかった方、服用出来ない方(県外者、妊婦、幼児など)はどうされるのか。その配布状況と今後の管理について伺う。

りその結果が発表され次第、計画に反映し公表する。受け入れ先については、担当者レベルで情報共有、意見交換を行っており、今後両県を交えた関係市町の協議を行う予定である。

安定ヨウ素剤配布状況については、町内5km圏内の60%を超える住民の方に配布完了しており、都合により受け取る事の出来なかった方、配布対象年齢外の方、転入者向けに定期的に配布が出来るように県と調整を行っている。

町内3箇所に万が一の時に避難出来る放射線防護施設を改修したが、避難者のためにも、施設数を増やして行く事を検討して行く。

【町長】

現在放射線をわかりやすく説明するビデオを作成中であり、編集の最終段階である。平成27年早々に放映出来ると思う。

現在、国(内閣府)の原子力防災ワーキンググループで策定中であ



「ブルーフラッグ認証取得」の意義を問う

答弁 町民が環境保持の大切さを体感し、ブランド力が向上する

大塚 ひとみ 議員

【大塚】
高浜町では平成28年に国内第1号のビーチ国際環境



認証ブルーフラッグの取得に向けて活動を開始している。町民の意識は高いものが要求されるが、一方で得られる評価や効果もまた大きなものが期待される。

高浜の海の水質や安全・環境が国際的に認定取得出来れば、海の価値を再認識し環境保持の励みになると共に、町民も大きな誇りを感じると思う。官民一体となつての取り組みが求められるが、次の4点を問う。

- ①国・県・行政・観光事業者や町民は具体的にどのように取り組んでいくのか。
- ②町民に対する説明会や今後の周知方法は。
- ③自然環境保持に及ぼす効果、経済効果の予想は。
- ④取得時期を平成30年福井国体に合わせる考えはないか。

【まちづくり課長】

①環境省の振興施策に対する支援の拡大が期待されると共に、関連施設は県の整備が期待される。

また、若狭を代表する観光資源としてPRが出来る。町は環境教育活動と情報提供や安全とサービス実現に向けた整備に取り組む。また水難救助やライフセーバー組織を支援し、観光従事者や町民の活動の支援を行う。関係者全てが協働して情報発信や案内誘導など行う事が大切である。

②各団体の総会、公民館講座、小グループの集まりなどで説明会・機関誌の発行などあらゆる機会をとらえ周知を図る。

③次の世代を担う子供達が環境保持の大切さを体感できる機会であり、ブランド力は大きく向上し観光客の増加、需要が期待できる。

④国内第1号の取得こそ意味があり、国体開催前に認証を取得することが望ましい。



人口減少対策を具体化すべきでは

答弁 12月に対策本部を立ち上げる

山本 富夫 議員

◆高浜町役場機構改革について

【山本】

庁舎機構改革では、現在の課・室体制で機能するのか疑問である。新庁舎での体制を再構築すべきではないか。

【町長】

新庁舎完成の折には、機構改革に着手したい。特にまちづくり課の業務範囲の農林水産振興、商工・観光振興といった「産業部門」に加え、地域振興や広域行政といった「企画部門」も所管しており、他の課に比べても幅広い分野を担う状況となっており、新たな組織機構においては、この「産業部門」と「企画部門」を、別々の課が担当し、役場全体として人員配置のバランスがとれた組織が必要と考えている。

◆人口減少対策について

【山本】

先般、「2040年までに896の自治体が消滅する」と予測した日本創生会議（増田寛也座長）の発表

は、我が町を含め地方自治体を運営するものにとっては衝撃的レポートで、我が町も対策を大至急進めるべきでないか。

【町長】

高浜町の総人口は2010年の1万1062人↓2040年に7032人、そして20歳から39歳までの女性が1047人↓397人に減少すると報告され、深刻に受け止めている。12月に、町長を本部長として、人口減少対策本部を立ち上げ対策を進める。

◆JＲ踏切拡張と南山手線の通行について

【山本】

地元並びに関係機関への要請等がなされたと思われるが、その後の経過と状況確認について。

【建設整備課長】

JＲ踏切・道路改良・中央体育館へのアクセス道および生活道路として、一方通行も視野に入れ道路計画を模索していく。



国道の歩道に街路照明の設置を

答弁 国道事務所と協議中

勝本 繁昭 議員

【勝本】

国道27号線の街路灯照明ですが、現在の国道27号線の街路灯照明を現地調査し、高浜町区長連合会より行政に陳情要請されたと聞くと、結果は。

【防災安全課長】

要望書の提出はいただき、福井河川国道事務所と協議中。

◆町の人口減少の取り組みは

【勝本】

人口減少と少子高齢化が進む中、町内に「ターナー・Uターナー者」を呼び込むため、産業おこしが大切である。移住者に対する生活支援や空き家住宅の貸出しなどの制度を設ける。「暮らす家、働く場」がなければ移住できない。産業おこしに力を注ぎ、働きやすい職場を作るのが町営の農林水産・商工業施設で自立した産業が生み出せると思うが。

【町長】

産業おこしについては、少しずつ

つではあるが、様々な産業創出が進みつつある。

移住者に対する生活支援については、人口減少対策の面で大変重要と思う。現在、定住化のため進めている空き家情報バンクを利用した人に対して、改修補助、家賃補助などに支援を限定するなど検討。高浜町の自然、施設等を活かした自立した産業を創出することは、非常に重要であると考えている。

町営の農林水産・商工業施設の産業創出、雇用の受け皿には、高浜漁港を中核に6次加工施設を検討する。

◆町民の災害避難場所は

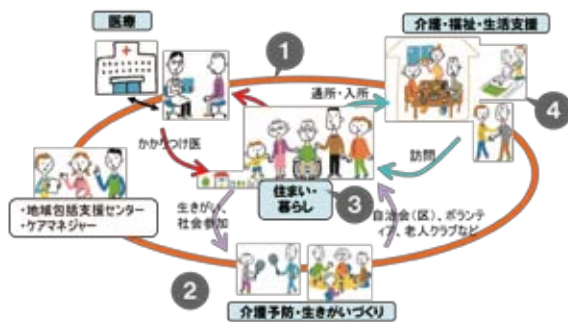
【勝本】

地震、津波及び原発等の災害避難には限界がある。一時待機避難シェルターを設けては。

【防災安全課長】

P A Z内には、複数個所の防護施設が必要であると考えている。引き続き防護施設の設置を検討する。

2025年を見据えた
高浜町の地域包括ケアシステムの姿



- 【上尾】 高齢化社会に向け「地域包括ケアシステム」(図)の構築が、求められるが町としての取り組みは。
- ① システムの中核となる地域包括支援センターの機能強化は。
 - ② 福祉の拠点施設を運営組織も含めてまちなかへつくる仕掛けを
 - ③ 団塊の世代や地域住民のボランティアや社会参加への対策は。
- 【福祉課長・副町長】
- ① センター職員全員が兼任状態



「地域包括ケアシステム」の
構築を総合的な取り組みで
答弁 まちづくりの視点で取り組む

上尾 徳郎 議員

であり早期の解消を図りたいが専門的職員の確保は難しい。育児休暇職員の復帰や可能な業務の外部委託対応で体制強化する。

- ② システムの国・県の事業制度が整備された時、対応できるように体制を庁内横断的に整備する。
- ③ 高齢化が進み労働力人口の減少が見込まれる。安定した上質のサービス提供には高齢者の社会参加・支え合い体制づくりを進める。

◆「健康長寿のまちづくり条例」について

【上尾】 医療・保健事業を通して「健康のまちづくり」を進める中、この条例を制定してはどうか。

【保健課長】 地域主体の健康づくりに向け、医療・保健・介護が連携しソーシャルキャピタル(社会関係資本)を活用した「健康づくりの町」を目指していく中で検討する。



認定子ども園を導入すべき

答弁 町外からの視点も踏まえ検討したい

小幡 憲仁 議員

【小幡】 幼稚園と保育所の機能を併せ持ち、親の就業の有無に関わらず利用可能な「認定子ども園」の導入に踏み切るべきではないか。

【保健課長】 認定子ども園は教育ニーズに対応できる施設であり、選ばれるまちの要素となるよう検討する。

◆病後児保育の導入について

【小幡】 病後児保育導入の実現見込みを問う。

【保健課長】 若狭高浜病院と事業実施に向けた協議、検討を行っている。

◆障がい福祉多機能型事業所の開設について

【小幡】 町内NPO法人が求めている障がい福祉の多機能型事業所開設要望の実現見込みを問う。

【福祉課長】 建設、運営費全てを町負担は難しい。NPOで出来る範囲を考え、高浜町で持続可能な障害福祉サービス事業等を模索し確立したい。

◆都市計画道路(横断5号線)について

【小幡】 和田うすわ地区で計画中の都市計画道路の進捗を問う。

【建設整備課長】 国交省、県・公安委員会の合意は得られた。平成27年度に都市計画決定を実施し、平成28年度以降に整備事業着手したい。

◆休日のごみ収集について

【小幡】 休日に粗大ごみの搬入が出来るようにならないか。

【住民課長】 日曜日のごみ受け入れについて検討したい。



避難場所・道路整備

答弁 跨線橋設置についての協議

廣瀬 とし子 議員

【廣瀬】

高浜町の高台に避難箇所としては中央体育館である。南区側から避難を想定しているのか。どの様に予定しているのか。また、避難道路として高浜駅周辺から直接渡る跨線橋を設置してはどうか。町民が安全に避難出来るために必要である。考えを伺う。

【防災安全課長】

南区側から中央体育館への避難については、湯谷区側からの避難を想定しているが、最短距離としては、中央球場バックネット裏入口の道から、徒歩で避難も有効である。跨線橋の設置は関係機関と協議を行っているが、跨線橋には莫大な費用が必要で用地の確保に問題がある。JRの了解が得られないことから、現時点において設置は難しいと考えている。



◆子ども子育ての助成金制度について

【廣瀬】

少子化が進む中、平成27年4月から子ども子育て支援制度がスタートする。高浜町も人口減少しつつあるが、子どもを増やすために高浜町独自に何か施策を考えておられるのか。子ども3人以上の家庭に（0歳～就学前まで）助成制度が出来るような方策を考えてはどうか問う。

【保健課長】

当町における多子世帯への助成として、出産祝い金等の現金給付は行っていない。経済的な支援として2人以上の児童が同時に入所している場合の2人目の保育料が基準額の2分の1、3人目以降は無料となっている他、第3子以降3歳未満児の保育料は無料となっている。子育て家庭への支援については、経済的負担を和らげる施策、給付サービスの充実が求められるように検討する。



原子力災害避難計画について

渡辺 孝 議員

【渡辺】

原子力災害避難計画について以下問う。

- ①スクリーニングの場所は。②集団避難のためのバスは確保できるか。
- ③要援護者数の把握のため、医療機関、福祉施設などの連絡調整はできているか。④県外避難先市町との連絡調整はできているか。⑤和田地区などの住民にもヨウ素剤の事前配布をすべきではないか。

【防災安全課長】

- ①②③国の主導により、関係府県が協議を行うことになっている。町として、協議が早急に行われるよう求めている。
- ④今後福井県、避難先の兵庫県、市町等と十分協議を重ねる。
- ⑤「法」により原発から5キロ圏外の和田地区などは事前配布の対象になっていない。

◆学校給食費無料制度について

【渡辺】

学校給食は、今日「食育」とし

て教育の一環と位置づけられている。子どもの貧困対策、少子化対策のためにもこれを無料にする考えはないか。

【教育長】

給食費は、学校給食法によって材料費は保護者が負担することになっている。法の規定に従い保護者負担とさせていただきたい。

◆子ども医療費無料制度の拡充について

【渡辺】

高浜町の子ども医療費無料年齢は15歳（中学卒業）までとなっている。これを18歳まで引き上げる考えはないか。

【住民課長】

今後、課を横断した「人口減少対策本部」を立ち上げ、子育て世帯の応援、定住化対策等多方面からいろいろな施策を練っていく中で、広く検討していく。



ゴミ減量化と跡地利用のまちづくりを

西出 秀雄 議員

◆ゴミの減量化について

【西出】

最近、道路や空き家等で見苦しい所が多く見られる。決算書によると、ゴミの量が平成24年度より25年度は増加している。

①ゴミの現状は年々減少しているのか。

②焼却処理でのダイオキシン類の数値は。

③今後の減量目標と対策は。

【住民課長】

①ゴミの年間処理量、平成18年度の6290トンを一ピークに減少、今回の増加は七年祭の見学者や観光客の増で、一時的な増加と思う。

②ダイオキシン類の法定検査、排出ガス、焼却灰等の濃度を計測、基準値を下回る。適正に処理され、分析データも閲覧が公民館、図書館でできる。

③平成22年10月にゴミ減量化行動計画が答申、平成27年度のゴミ減量目標を1人1日当たりのゴミ排出量914gを目標に、年間

4432トンの減量化に向け取り組む。

◆庁舎の跡地と神野小学校の利用と計画について

【西出】

空家にしておくとも民家でも傷む。今後の管理と計画は。

【総務課長】

新庁舎公民館の建設後の計画として検討する。高浜保育所の移設や、まちなか歩きの拠点づくりとなる公園スペース等、近隣の方々の聞き取り等を行い、町中の賑わいづくりや、安心、安全づくりの場となるよう検討する。

旧神野小学校はシルバー人材センターが管理、仮置き場や防災施設として利用。

地域の要望等を考慮して活用方法を検討する。

本会議での 質疑・討論

■議案第64号

質疑

小幡憲仁議員

無線LANの環境整備予算・タブレット端末の準備は確保しているか。図書の購入はどうするか。

教育委員会事務局長

無線LANはオープン時には使えるようにしたい。タブレットの費用は無い。書籍は時間を掛ける。

■議案第70号

質疑

渡辺 孝議員

2回入札不調があったが価格の引き上げに繋がらないか。所見は。

上下水道課長

入札辞退の理由は、すべて技術者不足であると聞いている。大きな価格上昇はないと思う。

■議案第71号

質疑

渡辺 孝議員

ボーナスのうち、勤勉手当と期末手当の割合は。来年4月から職員給与はどの程度下がるのか。

総務課長

ボーナスは、年間では期末手当が26ヶ月、勤勉手当が1・35ヶ月である。下がるのは200円程度、最大で1万6千円ほどである。

討論

反対討論

渡辺 孝議員

4月から給料が下がるのは反対。

賛成討論

小幡 憲仁議員

国・県の勧告に従った改定である。民間は16ヶ月連続下がっている。

■議案第76号

質疑

上尾 徳郎議員

青少年旅行村は、青少年健全育成の部分でどのような形で継続するか。

教育委員会事務局長

利用者数は毎年減少してきた。多くの方に利用して頂きたい。

小幡 憲仁議員

教育委員会でのような議論がなされてきたのか。施設の管理運営をする別の管理条例が必要ではないか。

教育委員会事務局長

将来的なことや環境保全・産業振興を考えると仕方がない。今度は新たな条例を作る。

■議案第78号

質疑

渡辺 孝議員

応募した業者は何社か。指定管理料は。城山荘の今後の計画は。

まちづくり課長

応募は1社。指定管理料はゼロ。今後は城山公園全体の中で考えていく。

小幡憲仁議員

これまでの話と違うように思う。今後の経営計画を相談の上委託ではなかったか。

町長

当面は機能を維持していく。建

て替えは考えていない。

■請願第6号

討論

反対討論

山本 富夫議員

窓口での支払いが無くなると、コンビニ受診が起きかねない。反対である。

賛成討論

渡辺 孝議員

遊び感覚で病院へ行くことはない。賛成である。

賛成討論

小幡 憲仁議員

子どもの貧困問題もあり現金がないときは病院へ行けない。コンビニ受診が増えてもこの制度をめざすことは有益である。

■請願第7号

討論

反対討論

山本 富夫議員

立地自治体は勉強をしてきた。他の自治体とは温度差がある。

賛成討論

渡辺 孝議員

地元同意を広げることが当然で

ある。

反対討論

栗野 明雄議員

迷惑施設の地元同意でも同じ事がいえる。広げることで決まらなくなる。秩序の混乱が生じる。

■議案第73号・74号

討論

反対討論

渡辺 孝議員

待機児童の解消は、公立保育所で図るべき。

賛成討論

小幡 憲仁議員

幼稚園のない高浜町には、認定こども園は必要。賛成する。

■議案第77号

討論

反対討論

渡辺 孝議員

役場のミスである。反対する。

私たち町議会を

傍聴しました

12月の定例会は高浜町婦人会の会員の皆さんが傍聴に来て頂きました。お忙しいところありがとうございました。

議員一人一人が課題に向かって活動を行なっています。今後もよろしくお願い致します。

ぜひ！
議会の傍聴にお越しく下さい



予算決算常任委員会

委員長 山本 富夫

●承認第5号

■平成26年度高浜町一般会計補正予算(第5号)

今般行われた第47回衆議院選挙の執行に伴うために予算を専決処分した報告。予算内容として、歳入歳出予算の総額に歳入歳出1067万9千円を追加し、歳入歳出総額をそれぞれ108億3835万9千円となった。

質疑については、ポスター掲示場の謝礼金や投票所借上料について、掲示場の位置が高く張りにくいところがあるので気を付けてほしいとの意見があり、掲示板の位置については来年春にも選挙があるので再度確認するとの回答があった。

●議案第64号

■平成26年度高浜町一般会計補正予算(第6号)

補正予算額は、歳入歳出予算の総額から、歳入歳出それぞれ2億7637万8千円を増額し、歳入歳出の総額をそれぞれ111億

1473万7千円となった。

【審議(質疑)の概要】

◆教育費

◎和田公民館用地取得費3630万円。

予算から基本設計で本館の配置や駐車場の駐車台数が示せないか。

改築中の図書館の備品については色合いは木質か、リニューアールしたのだから、何か変わったとしてコーヒー等飲めるように審議会で検討はできないのか。

中央体育館建替えは、宿泊も出来る設備もあるのか？

どんな体育館になるのとか町民は疑問に思っているが、聞かずに計画が決まってしまうのはおかしいのではないか。

和田公民館の配置や台数については基本設計をたたき台として、来年の実施設計のとき検討と考えている。基本設計の段階では駐車台数は35台で、本館・駐車場・駐輪場であり、事業認定を今年度中に終えて、竣工は平成29年3月を予定している。

また、現在改築中の中央図書館の備品については、今の色同様とするが、子供の児童書架のところを少しカラフルに考えている。飲

食については、教育長からは考えなければならぬので議論の最中であり、審議会で諮って利用の枠を決めていきたいとの回答があった。

中央体育館の建替えについては、平成28年度が交付金のリミットであり、協議して伸ばしてきたので変更することは、これ以上は無理であるので平成28年度の建設であると答弁があった。機能のたたき台として基本設計を作っており、町民の意見の場を作り、練り直し、防災も併せて考えていると答弁があった。



和田公民館完成イメージ

◆土木費

◎地籍調査業務委託料264万6千円。

■現況、動機、目的について

平成25年度より馬居寺から始め平成26年度は登記の帳簿関係の整理を進め、同時に次の予定している横津海の調査・測量・立会の業務を進めているところである。平成26年度当初予算作成後2月に調査費に伴う人件費の上昇があり、国からの内示があったので事業費264万6千円の内、対象経費の255万6千円を歳出、その4分の3の191万7千円を歳入に計上したものでその順序で進めているとの答弁があった。

◆民生費

◎臨時給付金給付事業費1945万9千円の減額について。

当初の見込み者数、受付者数、受給者数の確認があり、差引は給付漏れであったのか、勧奨したのか。

税務課の税情報により申請対象見込み者に送付し、未申請者に対しては勧奨の通知を郵便で出しており、広報については、ホームページ・有線放送を行なっており、国によるテレビ広報もされている。

総務産業常任委員会

委員長 栗野 明雄

◇12月2日(火)

役場3階会議室 全員出席

【審議事項】

●議案第71号

人事院勧告を受けて、県内の市町村の対応は。

時期は違っても同じ方向で対応するとの答弁があった。

国の方針に逆らうと交付税でしつぺ返しがある。ラスパイレス指数については、高浜町は現在低いが、職員の昇給の努力はしているとの答弁があった。

◇12月9日(火)午前9時より

役場3階会議室 全員出席

【審議事項】

●議案第68号・69号

人事院勧告による人件費を補正したものであり、対応者も同じ上水道課なので一括審査とした。

山中地係の水源地の獣害対策について。

フェンス工事を行ったが、もっと上流までフェンスを取り付け獣害対策をしたいとの答弁があった。



山中地係水源池

●議案第70号

三松駅周辺の上水道タンクへの送水管布設工事での入札不調について。

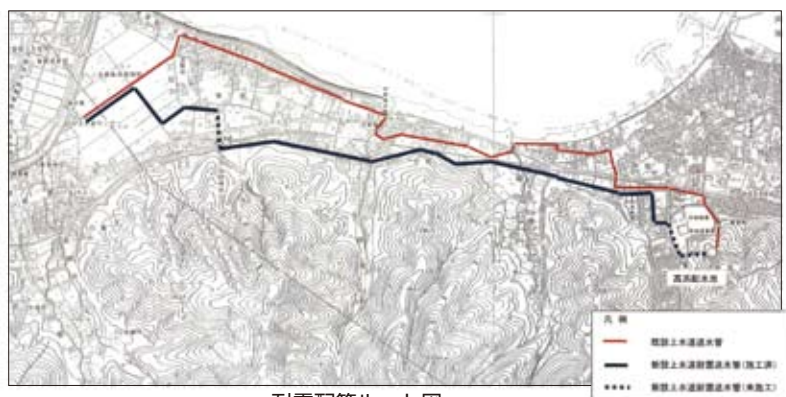
今年度分の国道を横断する工事については、平成28年度に行い、小浜線を横切る工事については、JRとの約束もあり27年度に予定通り行うとの答弁があった。

送水管の耐震配管はどのルートで配管をするのか。また、別ルートで配管をすれば2ルートで送水をするのか。

図面(下図)に示すルートで配管を行い、繋がったら新ルートに切り替えるとの答弁があった。

水源池は量的に安定しているのか。井戸は地震にあっても大丈夫か。

井戸は4号井戸までであるので、



耐震配管ルート図

量的には安定している。2号井戸は耐震化をした。管理棟などは現施設を使いながら更新をしていきたい。

●議案第78号

城山荘の指定管理者に、審議会では、平成27年度より3年間「南せくみ屋」に決定した事による議決である。

当面既存の施設を活用するが、改修計画はどのようにするのか。

内部留保で対応するが、要望の高いもの・営業的に必要なものを行っていく。

民間委託になって1年だが、結果はどうか。

昼食・宴会などが伸びており、営業的に努力された効果が現れている。

公務員が管理するのと民間が管理するのと大きな差があることが現れた。これを参考として役場庁舎内の意識改革の参考ににならないか。

民間が入ることでこれだけ変わった。新庁舎が出来ても職員の意識改革に努めていきたい。



城山荘従業員

厚生文教常任委員会

委員長 上尾 徳郎

◇12月10日(水)午前9時より

役場3階会議室

委員7名・理事者出席

●議案第65号

高額療養費増額の理由は、

退職被保険者の高額療養費の多額の事例があり、今後の見込額に不足が見込まれるための増額計上。

●議案第67号

介護保険制度改正による介護保険システム改修の経費だが改修内容と財源は、

業務内容は、①地域支援事業の見直し②特定養護老人ホームの重点化③サービス付き高齢者向け住宅への住所地特例の適用④保険料の賦課決定の期間制限⑤介護認定の有効期限の延長⑥低所得者の1号保険料の軽減強化 財源は国交付金と一般財源

た。

●議案第73号

条例制定の目的は、町内で認可を受ける事業者はいるのか。

子ども・子育て支援法に基づいて小規模保育事業などを高浜町が認可する為の基準を定めるもの。

事業者はいるが認可を受けるかは解らない。

●議案第74号

幼稚園と保育所を一体化した「認定子ども園」を高浜町では考えていないが、民間経営の手法を取り入れた運営は考えられないか。

保育士も研修を重ね、教育的保育に取り組んでいるが、保護者などに内容も含め知らせる工夫が足りないと感じている。

新制度の中で町内の各保育所が、特色ある幼児教育を取り入れた保育を財源も含めて、長期的な方向性を持って町民とともに探っていくきたい。

●議案第75号

現在の放課後クラブの運営と施設は基準設定に適合しているか又、場所は現行のままなのか。

現在、実施している3か所とも

概ね適合しているが施行日までに細部整備していく。40名規模の設定だが、高浜クラブは75人を設定し2ヶ所で実施している。

設置場所は、高浜地区は高浜小学校の空き教室を改修し実施、和田地区は和田公民館で実施しているが、将来は和田小学校空き教室を利用する計画、青郷地区は青郷小学校に空き教室がないので引き続き青郷公民館で実施、内浦地区は現在クラブ員はいないが内浦公民館で実施の予定。

●議案第76号

青少年旅行村廃止に向けた協議の中で旅行村の目的の維持や改善策は模索・検討されたのか。また、廃止後の計画は。

利用者減少の中、職員や近隣住民の協力のもと施設整備・充実に努め、利便性の向上に向け財政面も含め検討してきたが、青少年活動の視点から新しい事業計画により、町有財産として有効活用を図ることになった。

現在進めている青葉山の環境保全・薬草を活かした産業振興・教育観光など、旅行村施設を一部改修して新たな事業に向けた条例を3月議会に提案していきたい。

●議案第77号

文化会館の外壁タイルの見込み以上の傷みや解体による雨漏り個所の確認修繕また、空調設備の方式変更による工事請負契約の変更だが、設計見積り段階での調査不足や各担当課どうしの協議不足との指摘があった。

●請願第6号

県をまたぐ医療機関で協力を得られるか。安易な受診につながらないか。負担金を一時支払う事で無料化を実感できるのでは。などの意見があった。



青葉山青少年旅行村 研修棟

原子力対策特別委員会

委員長 大塚ひとみ

■関西電力、高浜発電所大塚所長より高浜発電所の再稼働に向けた手続き、安全性向上に向けた取組み状況、高浜発電所1・2号機の特別点検実施の概要について説明を受けた後、質疑を行った。

今は稼働停止状況だが、日頃から点検はしているのか。

みなし点検、必要なことは定期的に点検している。

使用済燃料プールの耐震性対策工事はなされているのか。

プールは従来一番厳しい設計になっており、補強は必要ないが健全性は再確認した。

使用済燃料プール(ヒット)は最短で何年程度で満杯になるか。

六カ所再処理工場の状況や発電所の運転状況により一概には言えないが、仮に高浜発電所からの搬出が全くとなく4基全てが稼働した場合、管理容量、貯蔵量、使用済燃料発生量から計算すると再稼働から約7～8年後となる。

40年超の1・2号機に注ぐ力があれば、中間貯蔵に力を注いでほ

しい。再稼働前に些細なミスなどないようしっかり取り組んでほしい。など意見要望があった。

■防災安全課 平田課長より高浜町原子力災害住民避難計画説明会(町内全地区、14団体への説明会が11月28日終了)及び安定ヨウ素剤の事前配布状況について報告を受けた。

調査票の趣旨、目的は。

目的は①車の状況など渋滞予測に使用。②災害時避難行動要支援者の把握。③避難先(兵庫県・敦賀市もしくは縁故避難)の確認。

【付託案件の審議】

●請願第7号

30キロ圏自治体に理解をしていただくことは当然だが、社会秩序の問題を考えた時、社会的混乱を招く恐れがある。請願の趣旨書の「放射能による健康被害は広がっています」の文言は福島県の人に対する偏見が広がりかねない。30キロ圏の地元同意は立地自治体だけでよい。などの反対意見が出された。

鳥獣害対策特別委員会

委員長 井ノ元康夫

被害による被害対策が急がれる中、以前から注目されている「追い払い」対策でモンキードックの育成を行っているが、現在までの効果と課題や問題点が示され、その概要説明と現場確認を行った。

担当課からの説明では、警察犬訓練学校で半年間の服従訓練【子供などに惑わされない。飼い主の命令を聞く。呼べば必ず戻る等】と、指導者により半年間の現地訓練【集落でのサルを認識する等】を行い、訓練による活動の確認を行った。今後は認定基準を整理し明確化して行く事が重要で、県担当部局とのガイドラインを協議して行く事が説明された。

委員からは、出没する時間帯は日々変わると考えるが、その対策はどうするのか。また被害対策で他府県を視察したが、大学の研究者が、自治体と被害場所に出向き講義を行った対策の研究している。その時の説明はわかりやすく、合理的であると感じた。その様なノウハウを町内でも生かせないのか。などの質問があり。



追い払い犬「リキ」

担当課からは、サル対策に限らず集落全体で行う事が対策につながる事は実証されている。現在飼い主が一日2回の散歩を行っているが、集落全体でも他の「追い払い」活動が、被害を減少させる。先進地の視察に関しては、地域に応じた対策が必要と考えている。来年度は新たに調査費を計上し詳しく調べ対策の方針を検討して行く体制づくりを強化する等の答弁であった。

また委員からまちづくり課内に獣害対策を専属員でグループ化して欲しい等の要望があった。その後現地で訓練の成果を視察し適切であることを確認した。

地域医療・福祉問題調査 特別委員会

委員長 廣瀬とし子

8月31日に福井県原子力防災総合訓練が高浜発電所の事故を想定し実施された。若狭高浜病院も訓練に参加する。そこで放射線防護対策について委員6名で視察を行った。担当者より概要説明を受けて施設内を視察し、意見交換を行った。対象エリアは病院4階と老人保健施設の2階である。放射線を防護する施設である。病院4階、老健2階は病室が多いので防護区画をフロアに整備し、津波対策として考慮していた。

対象期間最大7日間を想定する。陽圧化設備の設置場所・通風は防護区画とフロアに設置(気密エリア内)故障発生時、外部に出るエリアをなくす。非常用発電機は3日間の燃料を想定したタンクを設置されている。

つまり、一日安全な区域で待機して体制が整ってから避難する。入院患者が対象で住民の避難施設ではない。除染する場合シャワーはないので病院3階のシャワー室へ行ってもらう。職員招集体制は

県の防災計画に従う。医薬品の備蓄は3日分ある。

●在宅介護の現状とグッとサポートの取り組みについて

有限会社 グッとサポート
代表取締役 岩本 守正

・開設/平成17年9月
・従業員(常勤パート含む)/42名



グッとサポート

事業内容は介護保険・医療保険・障害者支援・保険外事業がある。

介護職員初任者研修を平成25年8月から始め、介護職員の初級資格、資格取得後経験年数を重ねることにより介護福祉ケアマネージャーへステップアップも可能となった。現在まで5講座で80名が修了した。受講者は小浜市、舞鶴市の範囲、高浜町在住の修了者は23名であり、将来の人材育成事業の位置付けで取り組んでおられる。舞鶴市は養成研修受講料の3分の2を市が負担している。

若狭消防組合議会

委員 廣瀬とし子

第167回

若狭消防組合議会定例会

◇日程/10月8日(水)

若狭消防組合消防本部3階

【審議事項】

●認定第1号

■平成25年度若狭消防組合一般会計歳入歳出決算の認定

歳入12億9187万6347円、歳出12億6658万3964円。歳入歳出差引額2529万2388円で、翌年度へ繰り越すべき財源はない。

●議案第1号

■平成26年度若狭消防組合一般会計補正予算(第2号)

歳入歳出予算総額にそれぞれ633万5千円を追加し、歳入歳出予算総額15億1960万4千円とする。

【全員賛成で可決】



出初め式

第168回

若狭消防組合議会臨時会

◇日程/11月25日(火)

若狭消防組合消防本部3階

【審議事項】

●議案第2号

■平成26年度若狭消防組合一般会計補正予算(第3号)

歳入歳出予算の総額はそれぞれ524万1千円を追加し歳入歳出それぞれ15億2484万5千円とする。

【全員賛成で可決】

●議案第2号

■若狭消防組合一般職の職員の給与に関する条例の一部改正

【賛成多数で可決】

●議案第3号

■若狭消防組合消防団員の定員、任免、報酬、服務等に関する条例の一部改正

●議案第4号

■若狭消防組合特別職の職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正

●議案第5号

■若狭消防組合一般職の職員等の旅費に関する条例の一部改正

【議案第3、4、5号は

全員賛成で可決】

【議案第3、4、5号は

全員賛成で可決】

議会をチェックするのはあなたです

第7回

町議会

開催しました

出前報告会

和田会場 保健福祉センター

出前報告会



高浜会場 瑞祥苑

出前報告会



青郷会場 青郷公民館

出前報告会



内浦会場 内浦公民館



平成26年11月6、7日に議会出前報告会を開催し多くの町民の方に参加して頂いて貴重な意見を伺いました。ありがとうございます。一例ではありますが紹介します。

質問・要望

園芸事業は高浜町の本来の雇用につながるのか？

回答

（園芸事業の雇用）ハウス、カット野菜工場で100名～150名の規模の雇用（パート社員を含む）が生まれる。（株）福井和郷に対して地元優先採用は強く要望しているが、むしろ、必要な雇用数を確保できるかが課題。

質問・要望

高浜発電所を建設する時に道路も整備する話を聞いた。再稼働の前に道路整備が必要である。

回答

現在、福井県により災害制圧道路整備事業として音海トンネル、難波江坂の整備が進められており、地区関係者と協議しながら進めている。

質問・要望

神野～山海岸に道路が出来る話を聞いているが、現在決まっていることを内浦地区の方に説明してほしい。

回答

神野から山中間の道路整備については、現在、概略ルートを調査中で、検討を進める段階で内浦地区区長会と協議を行う予定である。財源は原子力関連の交付金を充たしたいと考えている。

質問・要望

原発再稼働についてはどう判断するのか。

回答

地元の判断としては、住民の代表である議会の意見を参考に最終判断は町長が決定する。

質問・要望

避難計画が十分に進まないまま規制委員会の審査は進むのか。また避難ルート、場所など詳しい説明がない。

回答

規制委員会の審査は、発電所の安全性を審査するものであり、避難計画はその審査の対象にならない。町では、今年度策定した住民避難計画について、各区で説明会を開催した。今後は、避難ルートや避難所などの情報をまとめた「原子力災害住民避難計画」のパンフレットを全世帯に配布し、周知する。

質問・要望

訓練と説明会に参加したが矛盾した事が多い。避難により道路は渋滞するに決まっている。今後も道路整備を要望して欲しい。

回答

原子力災害時に住民の避難が円滑に行えるよう、国、関係府県、警察などの関係行政機関、高速道路会社らと協議し、渋滞対策を検討する。また、避難道路の整備に

についても、適宜要望する。

質問・要望

原発関連の補助金は高浜町に降りてくる割合が少ないのではないかと。

回答

原発関連の交付金(電源交付金、核燃交付金)、税金(法人税、固定資産税)で、町予算の半分以上が賄われており決して少なくない。

質問・要望

議会だよりを見ていると、原案どおり可決・・・議会ではなくてもいいのでは。

回答

理事者側からの事前説明を受け、各委員会等で慎重に審議している。

質問・要望

現在の庁舎はどうするのか。

回答

耐震性能が確保されていないため、引き続き使用することは考えていない。このため、跡地の活用方法が決定次第、速やかに取り壊す。

質問・要望

機構改革で農林水産室も無くなり窓口が分かりにくいと聞く、1次産業軽視と受け止める。1次産業の高齢化対策に農業公社を。

回答

二次及び三次産業と連携する

ことにより、一次産業の活性化を図る必要がある。新庁舎完成に向け機構改革を検討中であり、産業振興の対応課についても検討中である。

質問・要望

県との連携の悪さ。県政バス参加者の乗り場は駅前ではわかりにくい。国道27号と旧丹後街道の使い分けが出来ていない。

回答

平成26年度末完成に向け国道27号・高浜駅区間の県道および高浜駅ロータリーの改修を実施しており、改修後には、高浜駅を中心とした交通網の見直しが出来るようにバス会社などの関係機関と協議を行っている。

質問・要望

旅行村の今後について使用許可はどうなるのか。キャンプ場と薬草園の関連は。

回答

平成27年度は、基本的に工事期間となる。ただし、要望の強いキャンプ施設について、夏休み期間の利用ができるように検討したい。受付は4月1日より予定。秋以降については、本格的な改修がスタートしており、基本的に全面工事中となる可能性が高い。薬草園は、既存のキャンプサイト以外

でのエリアを基本としているので、オープンにはH28年4月以降の予定。

質問・要望

少子化が進むが子ども3人以上の家庭に助成制度を考てどうか、結婚しても子どもが出来ない人がおられる制度はどうなっているか。

回答

経済的支援としては、児童手当の支給等があり、子育て支援事業の充実等が必要であると考えている。また不妊治療に関して、県及び町(2分の1補助・年間20万円限度)において助成制度がある。また12月17日に人口減少対策本部を、町長を本部長として設置予定。関係各課の若手職員を中心に、「暮らしたい・働きたい・訪れたい」の視点で対策を協議。

質問・要望

高浜病院は看護師不足と聞くその対策は。高浜中で職場実習があるが学校教育の中の経験を希望する。

回答

高浜病院に対しては、地域医療の推進に係る事業補助金や、プライマリーケア講座に伴う福井大学医学部からの支援で対応していく。また本年9月には高浜中学校の2・3年生(約220名31グループ)を対象に医師・看護師等31名により、医療介護特別授業を実施した。

質問・要望

鳥獣害対策をしっかりとお願いしたい。万全の対策をしてほしい。

回答

追い払い・防衛・捕獲の3点を基本の柱とし、H27年度内に恒久柵設置検討を踏まえて鳥獣害対策を総合的に見直す。集落においても継続して、追い払い作業の実施や捕獲管理等の体制を構築願いたい。

質問・要望

駅舎から町を見ると雑然としている。緑を取り入れて眺望を良くしてほしい。街灯がまちまちで見えてくれが悪い。

回答

駅前通りについては、シンボルロードとして位置付けている。今後、コンパクトシティ構想の中で街灯などの景観面(電線の地中化)も含め検討していく。

質問・要望

和田駅前から和田小学校までの付近は水害で苦労している。治水対策について。

回答

近年の海面上昇と集中豪雨等により冠水が顕著になっており、抜本的対策を講ずる必要があると認識しているので調査に取りかかる。

東京工業大学 澤田先生 原子力を語る

地域と原子力

2009年。高浜から『つる de アトム』がスタートしました。高浜中生徒の力作、地域紹介DVDは、毎年ランナーがリリースし、昨年被災地福島の一ピレツジに届きました。

今、福島では

被災地の知人に半谷輝己さんがいます。病気の母を避難途上で亡くした彼はいま、地元で放射線の風評被害と格闘しています。地元住民の理解促進、そして都会人やメディアの無責任をなんとかすることです。

昨年暮れ東京のおでん屋さんで、霊山(りょうぜん)で捕れたイノシシ肉を喰う会を開きました。霊山は、全村避難した飯館村の隣町です。地産の伝統食が喰えないだけでなく、風評被害が凄まじい。長く培った伝統食を「死んでもいいから喰いたい」という人がいる。どういうことか？

『食品中の放射性物質基準値』を超えるような食品を口にすれば、もうアウトだ、いずれ死ぬ。そう思われている。地元のイノシシや

イノハナ茸はめでたいハレの日の食。それらが、基準値以上の放射能を含んでいる。私達がおでん屋さんで食べたイノシシ肉の放射能は、1kgあたり800ベクレル。日本の基準値は100ですが、欧米は1200です。

『日本じゃあ喰っちゃ死ぬかもしれないね。けど、アメリカにもってけば喰えんのか？ふざけるな！』自然な憤りです。2012年に当時の厚労大臣の小宮山洋子さんが、都会のお母さん達の声におされて、基準を異様に厳しくしてしまった。少数の都市住民の猛烈な声が、福島の人々の伝統食と生活を奪い、風評被害に油を注いだだけでなく、地元の文化と生活を破壊してしまっただけでなく、行政も政治も地元の窮状に耳を貸さず、改訂の気配すらない。

行政と政治の壁

高浜原子力は、2番目に審査書案がまとまる模様。さて、原子力規制委員会の発言が最近少し変わって来いませんか？お隣の敦賀

原子力の活断層問題も、赴きが変わった。

立地地域の皆さんができること…それは、地域がこれまで果たして来た歴史的事実、つまり日本のエネルギー安定供給を支えて来たことに矜持をもって、声を上げることでないでしょうか。上げた声を届けるお手伝いは私達もできる…その思いで、昨年から『原子力国民会議』という活動も始めています。

おわりに

日本を支えて来た福井にも福島にも恩返しをしたい。つる de アトムで日本各地に繋いだ線の関係を、さらに面に広げ、電気の消費地とも絆を築いて行く。それが日本の未来に必要な—その思いの原点は高浜にある。今後も日本の将来のためご指導ください。



澤田 哲生
(さわだ てつお)

京都大学物理学科卒。現、東京工業大学原子炉研究所助教。若狭高校で『環境エネルギー学会』のお手伝いも。近著は『原発とどう向き合うか』(新潮新書)。

編集後記

師走の訪れと共に寒さきびしくなる中、第7回12月定例会が開催されました。開催日に同じくして第47回衆議院選挙が公示され、14日には自公連立政権が3分の2議席を確保する審判が下されました。

26年4月に消費税が8%になり、日本経済が同年9月までの統計で、GDPがマイナスに転じるなどして、安倍総理が2015年10月実施予定の消費税率10%実施を、1年半先延ばす判断が示されました。人口減少問題、社会保障費増大など、日本には多くの問題が山積しています。税金が問題なく使われるのか国の財政規律をしっかりとっていくことが国民の思いであります。26年の一文字も「税」に決まり世相を物語る一年であつたように思われます。

今年は未年です。また4月には、統一地方選挙で議会の改選も控えています。町民の皆さんのご期待に添えるよう議員全員が町政発展に寄与出来るよう努力いたします。

広報特別委員会

委員長	栗野 明雄
副委員長	的場 輝夫
委員	山本 富夫
	横田 則孝
	廣瀬とし子
	上尾 徳郎